

＜対策のポイント＞

農業農村整備における生物多様性の保全技術の確立などの環境との調和に配慮した事業の推進に貢献する調査を実施します。

＜事業目標＞

生物多様性の保全などの環境との調和に配慮した農業生産基盤の整備・保全

＜事業の内容＞

農業農村整備においては、**土地改良法に基づき、環境との調和に配慮しつつ事業を実施**し、農村地域における環境の保全・形成に資することが必要であるため、以下の調査を実施します。

1. 農業生産基盤整備推進調査

農村環境保全に資する**農業生産基盤の整備**のための計画手法及び**対応技術**を検討します。

2. 生物多様性保全調査

農村地域における生態系に関する状態を的確に把握し、**生物多様性の保全**のための**対策技術**を検討します。

＜事業実施主体＞

国（国費率：10/10）

＜事業イメージ＞

1. 農業生産基盤整備推進調査

希少動植物の移動・移植手法の検討

リスクの大きい希少植物の移植

移動・移植先としてのビオトープの設置

生物の生態（共生関係等）を踏まえた移動

■希少動植物の移動や移植に係る事前の調査、実施、事後モニタリングに係る手順や方法を技術資料として取りまとめ

脱炭素効果の可視化手法の検討

炭焼き作業

竹炭

施用

竹の伐採作業

土壌改良

暗渠排水

疎水材

木炭等（地表-60～-20cm程度）

■竹の伐採、炭化、農地施用による環境負荷低減の取組について、J-クレジット化の検討及び温室効果ガス削減量を算定して、脱炭素化貢献度を可視化する手法を技術資料として取りまとめ

2. 生物多様性保全調査

農用地保全のためのビオトープ整備手法等の検討

ビオトープの施工

水生昆虫等のすみか

エリアを区分し、ローテーションによる草刈り実施等

環境学習

江

施工

維持管理

■ビオトープの利用目的に応じた整備手法、長期中干しの影響緩和に向けた江の整備手法や維持管理労力軽減のための工夫等を技術資料として取りまとめ